

茨城新聞

5月19日 土曜日

茨城新聞社

T310-8666
〒310-8666
水戸市空草町978-25
電話(029)239-3001-15
http://ibarakinews.jp
編集局
電話(029)239-3020
FAX(029)301-0362
〒310-029-218
(平日午前8時～午後5時)

伊勢甚

水戸市泉町三丁目一番八号第二ビル七階
TEL:029-227-3342

ぎょうのニュース



- 1 カスイチ愛結輸出す
- 2 煙岡好調ホールインワン
- 3 大学生の就職率最高98%
- 4 オリジナル文具製品販売
- 5 茨城国体PRボード披露

竹島記載 赤水の地図、政府注目

7月、都内で特別展

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水(1777-1801年)が手掛けた古地図に、政府注目している。伊能忠敬(1763-1820年)に経緯線を入れたのが国最初の日本地図「改正日本輿地勝覧全図」(赤水図)を完成させた。政府は「江戸期の庶民が竹島を日本領土と認識していたことを示す代表的な資料」と高く評価し、今夏に特別展を開催する。昨年、の年展300年を機に顕彰機運が高まる地元は「赤水の業績を国に発信したい」と期待を寄せている。

(日立支社・飯田勉、東京支社・高岡健作)

広角レンズ



「改正日本輿地勝覧全図」の展示物と展示用地図を照らし合わせる山本智嗣(左)と高萩市歴史民俗資料館補佐(右)。

■相次ぎ調査
内閣官房領土・主権対策部は、1月に東京・日比谷の「領土」館の竹島や尖閣諸島を巡る企画調査室は、同市を、市会館に開設した。

訪れ、赤水図の撮影を行った。主権展示館の目玉資料として、赤水の「領土」館の竹島や尖閣諸島を巡る企画調査室は、同市を、市会館に開設した。

長久保赤水 1777年、現在の高萩市赤浜の農家に生まれ、9歳で母を失い、16歳の時に鈴木玄淳の塾に通い、25歳から赤水の著者、名越南溪などに学んだ。35歳ごろ、地図に興味を持ち始め、日本各地を旅しながら自身の目で国土の地理について学んだ。江戸末、天文学も学び、77年に水戸藩6代主君・徳川治保の侍講に抜擢された。江戸小川の岩瀬邸で97年まで暮らした。1801年に没した。

情勢などを紹介する国の初めての施設で、同企画調整室の山本智嗣参事官補佐は「赤水図に大きな価値を感じている」と話した。

外務省の委託を受け、政策シンクタンク・日本国際問題研究所(東京)も4月下旬、3日かかりで赤水の関関資料を調査するため同市入りした。江戸期の庶民が実用し、約50もの地名・旧跡などが記された赤水図には、竹島が描かれており、当時の庶民が竹島を日本領と認識していたことを示す証拠と注目している。

調査した鳥根入法文字

部(左)の長久保赤水は「竹島を初めて日本地図に記したのが赤水。韓国時代に描かれたが、赤水は東アジア全体に関心をもち、各地のさまざまな書籍や資料を収集した」と高く評価する。

同企画調整室は3月に続き4月にも同市を訪れ、佐川会長らと会った。同展示館で7月初旬から約1カ月間、赤水の特別展を開催し、地図や関係資料など約20点を展示する考えを明らかにした。顕彰会の提案で都内の赤水ゆかりの地を巡る「オキナクリー」を9月に開催する予定も組まれた。

佐川会長は「都内で赤水の特別展や催しが開催されることになり、大変うれしい。今後更進していきたい」と期待する。

同会は19日に都内で開催される国産地図学会関係者の来市や、国の重要文化財の指定に向け取り組んでいくと意欲を込め、

「プロフェッショナル」の動画を制作し、



プロフェッショナル